

地域再生計画評価調書

計画の名称	町田市まち・ひと・しごと創生推進計画	事業の名称	町田市まち・ひと・しごと創生推進事業
-------	--------------------	-------	--------------------

★基本目標 1

目標の名称	経済活動を盛んにする		関連事業の名称	経済活動を盛んにする事業		
事業概要	商業を中心とした産業の育成や起業の促進などを通じて、時代のニーズに応じたサービスを生み出し、地域で働ける環境をつくることで、地域の経済活動を盛んにし、活力ある地域を形成していきます。			具体的な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・起業・創業の魅力を発信 ・事業者の新分野・新技術への進出支援 ・里山環境の活用と保全 ・デジタルシフトの推進／市役所の生産性の向上 ・行政サービスのデジタル化推進 等 	
	重要業績評価指標 (KPI)		現状値 (計画開始時点)	実績値 (2024年度)	目標値 (2025年度)	備考
	●居心地がいい場所と時間が町田市にあると思う市民の割合		76.4%	71.2%	79.8%	政策 3
	●行政手続きの利便性が向上したと感じる市民の割合		49.1%	61.9%	59.4%	基本方針 1
取組結果	<ul style="list-style-type: none"> ・起業、創業に関心を持つきっかけづくりのため、町田新産業創造センター等と連携し、小学生向けの「まちだキッズアントレプレナープログラム」、高校生向けの知財イベント等様々な創業機運醸成イベントを実施しました。 ・支援機関が連携する「町田市事業承継推進ネットワーク」を活用して、個別相談や資金調達サポート等の多様な支援を実施し、事業承継累計完了件数は目標値(25件)を大きく上回る75件となりました。 ・市有山林の間伐材について、町田市農業協同組合椎茸部会・椎茸農家・保全活動団体と連携し、椎茸栽培の原木として利用する取組を開始しました。 ・市民の利便性や業務の生産性向上に向け、生成AIと3Dアバターを組み合わせた全国初のオンライン行政手続検索サービス「AIナビゲーター」や、来庁時間を事前に予約できる「オンライン窓口予約システム」等を導入しました。 ・LINE等を活用し、国民健康保険の加入・脱退の申請や、高額療養費の申請など申請件数が多い手続を中心に、新たに122件をオンライン化し、オンライン化した手続の累計件数は553件になりました。 			外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・取組は概ね順調に進捗している中で、1つ目のKPIが低下しているのは治安面の課題が影響していると推察する。刑法犯罪件数は減少してきているものの、体感治安はそれほど変わっていないため、町田駅周辺の再開発と合わせて改善を図っていく必要がある。 ・トライアル認定制度では、AIを含めたデジタル関連商品の件数がかかなり増えている。市内事業者の質も向上しており、全国的・世界的に発信できるような商品も見られるようになってきた。今は企業経営にあたっての地理的な制約も少なくなってきており、町田市での創業や事業継続の機運もまだまだ高めていける。認定された事業者だけではなく、認定されなかった事業者に対するフォローなど、市の制度を通じて出来た接点を活かせる仕組みになるとなお良い。 ・町田市は国のデジタル推進に関するプロジェクトを活用して、着実に実績を上げてきている。デジタルシフトして終わりではなく、そのツールを活用して市民が町田市の情報を場所や時間的な制約を受けずに取得可能となることで町田の魅力が伝わりやすくなると良い。 	
2024年度 寄附件数	9件	2024年度 寄附額	3,100,000円			

★基本目標2

目標の名称	人々が交流するまちづくりを推進する		関連事業の名称	人々が交流するまちづくりを推進する事業		
事業概要	人々が集まる商業などの賑わい、文化芸術、スポーツ、地域づくりなど、地域資源をいかした町田発の取り組みを生み出す場や体制づくりを進め、多様な世代の活躍を実現します。また、これらの活動や交流の場を含むまちの魅力を発掘、創造、発信していき、多様な世代の活躍、交流を拡大していきます。		具体的な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・シティプロモーションの推進 ・シティセールスの推進 ・ホームタウンチーム等との連携の推進 ・地域活動団体支援 ・地域における福祉の困りごと相談支援体制の強化 ・中心市街地の賑わい空間の創出 等 		
重要業績評価指標 (KPI)			現状値 (計画開始時点)	実績値 (2024年度)	目標値 (2025年度)	備考
●居心地がいい場所と時間が町田市にあると思う市民の割合 (再掲)			76.4%	71.2%	79.8%	政策3
●市内で学習やスポーツに触れる機会があった市民の割合			32.9%	32.8%	39.7%	政策4
●地域活動に参加したことがある市民の割合			25.8%	26.9%	31.4%	政策6
●困ったときに助けてもらえる人がいる市民の割合			73.0%	79.8%	76.8%	政策6
●自分らしく生活できている市民の割合			83.1%	81.8%	86.6%	政策7
●市外の人に薦めたい場所が思い浮かぶ市民の割合			74.7%	71.5%	80.7%	政策8
取組結果	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的なメディアプロモートによるテレビ、新聞等への露出増によって、市の認知度が高まり、広告換算額で約16億5,000万円の効果が得られました。 ・町田で新たな挑戦を行う個人や団体に対し、最大5万円の助成金を交付する「まちだづくり応援基金」を開始し、8団体に交付しました。 ・2024年10月に新たに4地区に地域福祉コーディネーターを配置し、活動拠点として忠生地域と南地域に「まちだ福祉〇(まる)ごとサポートセンター」を開設しました。開設後、2地域で1,000件以上の相談を受け付けました。 ・2025年3月に情報発信や物品販売の拠点機能をもつ「町田駅前交流拠点はっとまちだ」がオープンしました。一体的整備として、原町田大通り歩道の拡幅とベンチを設置し、人々が集い、楽しめる空間を創出しました。 ・歴史ある書院造の建物を緑豊かな庭園を備え、地元の食材を使った食事を楽しむ「鶴川香山園」の整備を進め、2025年1月に開園しました。 		外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴川香山園などの観光施設がオープンし、着実に取組の成果が挙がっていると評価できる。今後は、市内に増えてきた観光資源を有効に活用し、5年～10年先を見据えた中長期的な視点を持って、町田市を戦略的に魅力ある観光地にしていくことが重要。観光を切り口に企業との関係も増えれば、寄附額も増えていくのではないかと。 ・8050問題に代表される老老介護、ひきこもりの高齢化など、これから顕在化していくことが想定される社会課題に対して、早い段階で支援を行っていく体制づくりは効果的な取組だと評価できる。 ・今後、団塊の世代の高齢化に伴い、地域活動の担い手不足が深刻になっていくことが想定される。無償ボランティアに頼るといった形も限界を迎えることが考えられるため、担い手に対する支援の形や担い手確保の手段をしっかりと検討していく必要がある。 		
2024年度 寄附件数	12件	2024年度 寄附額	8,900,200円			

★基本目標3

目標の名称	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる		関連事業の名称	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる事業		
事業概要	若い世代の結婚から出産・子育てなどの家庭を支えるための切れ目のない取り組みを進め、共働きでも仕事と両立しながら子育てしやすい環境、希望どおり子どもが持てる環境をつくります。		具体的な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における相談支援の充実 ・送迎保育による多様な保育サービスの推進 ・保育の質の向上 ・新たな学校づくりの推進 ・学童保育クラブの整備 ・えいごのまちだの推進 等 		
重要業績評価指標（KPI）			現状値 (計画開始時点)	実績値 (2024年度)	目標値 (2025年度)	備考
●合計特殊出生率			1.21	1.11	1.27	政策1 ※前年度数値を掲載。公表され次第差替予
●子育てしやすいまちだと感じる市民の割合			64.8%	72.4%	68.8%	政策1
●子どもがいきいきと育つ地域環境が整っていると思う市民の割合			53.0%	55.3%	59.8%	政策2
●将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合			小6:82.8% 中3:67.6%	79.5% 61.8%	85.6% 72.5%	政策2
取組結果	<ul style="list-style-type: none"> ・出産後の助産師のケアを受けられるサービスについて、契約医療機関等を12か所から17か所に、訪問員を15名から18名に増やし、受け入れ体制の強化を図りました。その結果、利用申請数は目標値（438件）を上回る1,201件となりました。 ・若者のやりたいことの実現を市が後押しする「まちだ若者大作戦」を実施しました。演劇のワークショップを通じて交流する取り組みなど、10のプランが進行し、子ども達自らの意見発信や、やりたいことの実現機会を創出しました。 ・2025年1月に鶴川エリアの給食センターから中学校5校に、2,400食の給食の提供を開始しました。また、2025年度からの提供開始に向け、町田忠生小山エリア、南エリアの給食センター整備を進めました。 		外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・町田市の子育て世代に対する取組は全国的にも高い評価を受けており、それがKPIの実績にも表れていて評価できる。最近子育て世代の多くが共働きで、二世帯住宅に対するニーズも高まっている。そのような切り口からの支援を検討してみるのも良いと考える。 ・「まちだ若者大作戦」など、積極的に若者の参画を推進する取組も非常に評価している。このような取組から町田市民が一つになれるような町田を代表するイベントが生まれ、みんなで一緒に育てていくことができると良い。今後も新しい発想の取組がどんどん生まれることを期待したい。 ・給食センターを整備するだけでなく、地産地消の食材を使って温かい給食を子どもたちに供給するという取組は高く評価できる。給食の供給量が増えた分、地産地消食材の生産者や生産量の確保に向けた支援を通じて、雇用の創出や特産品の開発などにもつながっていくと非常に良い循環となる。 		
2024年度 寄附件数	10件	2024年度 寄附額	3,200,000円			

★基本目標 4

目標の名称	時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守る		関連事業の名称	時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守る事業		
事業概要	健康づくりの拠点や支援体制の構築とともに、良好な住環境の形成を促進し、健康で充実して暮らせるまちづくりを進めます。また、限られた行政財源の下、市内の公共交通の質の向上と公共施設の拠点への集約を進め、日常生活の利便性を維持向上させていきます。		具体的な事業	<ul style="list-style-type: none"> ・地域介護予防活動支援 ・大きな・速い交通の整備 ・避難行動要支援者の避難支援体制整備 ・都市計画道路の整備 ・公共施設再編の推進 ・市有財産の利活用 等 		
重要業績評価指標 (KPI)			現状値 (計画開始時点)	実績値 (2024年度)	目標値 (2025年度)	備考
●生きがいを持って暮らしている高齢者の割合			76.4%	75.0%	79.8%	政策 5
●市外の人に薦めたい場所が思い浮かぶ市民の割合 (再掲)			74.7%	71.5%	80.7%	政策 8
●日常生活に対して安心感をもつ市民の割合			67.3%	74.6%	72.4%	政策 9
●公共施設の利用満足度			89.9%	70.8%	90.0%	基本方針 3
取組結果	<ul style="list-style-type: none"> ・「町トレ」など介護予防活動を行う地域のグループに対して、実技指導や体力測定等を行い、継続的な活動を支援しました。また、活動の周知を積極的に行ったことで活動団体が前年から15グループ増え、225団体となりました。 ・官民一体でのまちづくりを推進する共通指針として、2024年6月に「町田駅周辺開発推進計画」を策定しました。また、町田駅周辺の各地区で再開発に向けた検討を進めるため、まちづくり勉強会や協議会を開催しました。 ・民間事業者と連携したマンション防災イベントを実施し、発災時を想定したペランダの蹴破り訓練やポリ袋を使用した料理体験などを通じて、在宅避難に必要な知識やスキルを身に着けました。 ・公共施設の管理運営手法のDXを目指し、施工管理アプリ（施工管理に必要な情報を一元管理し、リアルタイムに共有できるアプリ）の実証実験とBIM（三次元化した建物情報モデル）導入の取組を実施しました。 		外部評価	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化を止めることはできないが、「町トレ」のような介護予防活動を行うことで健康寿命を延ばすことはできる。活動団体も年々増えており、高く評価できる。 ・公共施設やその敷地を利用したエネルギー生産ができると、跡地の活用やエネルギーの地産地消といった行政課題の解決につなげることができる。財政面から行政単独での事業化は難しいと考えられるため、パートナー企業を見つけるなど産学連携のプロジェクトとして、スマートエネルギーの事業化を目指してほしい。 ・近年、能登半島地震のような大きな地震も起きており、市民の防災意識が高まっている中で、実際の災害を想定した取組を行っていることは評価できる。地域の様々な世代の方が防災などのキーワードのもとに交流しながら、自ら物事に対応していく能力を養っていくことは、これからの時代の中で非常に重要となる。 		
2024年度 寄附件数	8件	2024年度 寄附額	1,140,000円			